

令和7年度

実務経験のある教員等による授業科目

作業療法学科 教育課程（令和6年度以降入学の方）

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			

3 専門分野

基礎作業療法学									
レクリエーション療法演習				30			30	1	◎
小計	0	0	0	30	0		30	1	
作業療法評価学									
作業療法評価学 I		60					60	2	◎
小計	0	60	0				60	2	
作業療法治療学									
作業治療学の基礎			30				30	1	◎
中枢神経障害			30				30	1	◎
骨関節疾患			15				15	1	◎
神経筋疾患				15			15	1	◎
内部障害				15			15	1	◎
神経・心理障害 I			60				60	2	◎
小計			135	30			165	7	

総合計	0	60	135	60	0	0	255	10	
-----	---	----	-----	----	---	---	-----	----	--

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。  
臨床実習にあつては1単位40時間とする。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション療法演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	2	1	後期	必修

◇講義概要

レクリエーションには遊び、各種スポーツ、芸能活動などがあり、室内において少人数で行われるものから、戸外で多数が参加して行われるものまである。これらの活動を通して生じる発散、昇華、洞察等の精神的変化による効果について、実技を通して学ぶ。

◇到達目標

レクリエーションをとおして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ファストインプレッションとは	講義・演習	
第2回	出会いの場と分析（交流分析）	講義・演習	
第3回	デュアルタスク手遊び	講義・演習	
第4回	レクリエーション財とは	講義・演習	
第5回	活動の分析とアレンジ	講義・演習	
第6回	集団の中の個人を捉える（五感で感じる技術）	講義・演習	
第7回	集団を介したレク活動における観察法	講義・演習	
第8回	集団を介したレク活動の実際	講義・演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践1	講義・演習	
第10回	コミュニケーションワークと実践2	講義・演習	
第11回	レクリエーションプログラムについて	講義・演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義・演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義・演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験（            %）	<input type="checkbox"/> 実技試験（            %）	<input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（   50    %）
	<input type="checkbox"/> 小テスト（            %）	<input checked="" type="checkbox"/> レポート（   50    %）	<input type="checkbox"/> その他（                    %）

教科書	なし
参考図書	療法的レクリエーション資料、その他適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施。 最終演習・実技にてレクリエーション課程を評価する。 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	2	2	前期	必修

◇講義概要

適切な治療および指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本事項について、講義と実習を通して学ぶ。

◇到達目標

- ・評価の意義, 目的を説明できる
- ・各評価法の意義, 方法, 目的を説明できる
- ・測定 (検査) 方法を修得し説明、実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	講義・演習	
第2回	協調性検査	講義・演習	
第3回	知覚検査	講義・演習	
第4回	知覚検査	講義・演習	
第5回	知覚検査	講義・演習	
第6回	知覚検査	講義・演習	
第7回	画像評価、筋緊張検査	講義・演習	
第8回	画像評価、筋緊張検査	講義・演習	
第9回	OSCE (協調性検査・知覚検査)、課題: 国家試験過去問題	実技試験	
第10回	OSCE (協調性検査・知覚検査)、課題: 国家試験過去問題	実技試験	
第11回	上肢機能検査	講義・演習	
第12回	上肢機能検査	講義・演習	
第13回	脳神経検査	講義・演習	
第14回	脳神経検査	講義・演習	
第15回	脳神経検査	講義・演習	
第16回	脳神経検査	講義・演習	
第17回	興味・役割・QOL 検査	講義・演習	
第18回	興味・役割・QOL 検査	講義・演習	
第19回	OSCE (上肢機能検査・脳神経検査)、課題: 国家試験過去問題	実技試験	
第20回	OSCE (上肢機能検査・脳神経検査)、課題: 国家試験過去問題	実技試験	
第21回	疾患別評価: ケーススタディ (中枢疾患)	講義・演習	
第22回	疾患別評価: ケーススタディ (中枢疾患)	講義・演習	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第23回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第24回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第25回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第26回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第27回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第28回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第29回	まとめ	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 30 %）	■実技試験（ 30 %）	■演習評価（ 20 %）
	■小テスト（ 10 %）	■レポート（ 10 %）	□その他（ %）

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版（医学書院） 新 徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版社）
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） PT・OTのための画像のみかた 第2版（金原出版）
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワーク・演習へ主体的に参加する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学の基礎 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法で行われる様々な治療学に共通する理念を学ぶ。作業療法評価・介入の原理およびその形態、治療を行う上での心構えと、各種の疾患特性に合わせた治療各論の基礎的な知識や技術の枠組みを学ぶ。

◇到達目標

- ・ADL,IADL とは何か、またその評価方法を具体的に説明することができる。
- ・身体障害領域で行われる種々の治療理論について具体的に説明することができる。
- ・自助具作成を通して、環境調整と日常生活活動支援の関係について理解することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADL と IADL の概要 Barthel Index	講義	小テスト
第2回	評価法 (1) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第3回	評価法 (2) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第4回	自助具作成 (話し合い)	演習	
第5回	評価法 (3) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第6回	評価法 (4) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第7回	自助具作成 (作成)	演習	
第8回	ベッド上介助 (寝返り、起き上がり、立ち上がり)・移乗介助の方法1	講義	
第9回	ベッド上介助 (寝返り、起き上がり、立ち上がり)・移乗介助の方法2	講義	
第10回	ADL 支援の実際	講義	
第11回	自助具作成 (発表) 申請書、動画・画像データ提出	演習	
第12回	ROM 運動、筋力増強訓練、協調性練習 1	講義	
第13回	ROM 運動、筋力増強訓練、協調性練習 2	講義	
第14回	片麻痺の訓練 (BRS 法、ボバース概念、PNF、CI 療法)	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (    %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 10 %)
	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト ( 10 %) <input type="checkbox"/> レポート (    %) <input type="checkbox"/> その他 (    %)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
中枢神経障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	前期	必修

◇講義概要

中枢神経障害を生じる代表的疾患（脳血管障害、脊髄損傷等）の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・中枢神経疾患の特徴を踏まえ、評価の計画・実施を援助の下行える。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション（授業概要説明・作業療法評価とは）	講義	
第2回	症例検討（治療理論に沿った評価）	講義	
第3回	患者モデル評価ガイダンス・評価準備①	講義	
第4回	患者モデル評価準備②	講義	
第5回	患者モデル評価準備③	講義	
第6回	患者モデル来校・評価実施①	講義・演習	
第7回	患者モデル来校・評価実施②	講義・演習	
第8回	患者モデル評価結果まとめ	講義	
第9回	患者モデル評価結果考察・共有	講義	
第10回	患者モデルレポート作成	講義	
第11回	疾患別治療学 脊髄小脳変性症	講義	
第12回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際①（実技を含む）	講義・演習	
第13回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際②（実技を含む）	講義・演習	
第14回	疾患別治療学 脊髄損傷	講義	
第15回	筆記試験	試験	

評価方法	■試験（30%） ■レポート（患者モデル20%、GW報告書5%、最終ポートフォリオ20%） ■その他（授業貢献度、持ち物・提出物管理など 25%）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	OT 症例レポート 赤ペン添削ビフォー・アフター
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
骨関節疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

骨関節障害を生じる代表的疾患（骨折、リウマチ等）の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・ 整形外科疾患に対する作業療法について具体例を示し述べられる。
- ・ リウマチに対する作業療法について具体例を示し述べられる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論 骨関節障害と作業療法	講義	
第2回	下肢、体幹の骨関節障害	講義	
第3回	手の骨折	講義	
第4回	末梢神経損傷	講義	
第5回	屈筋腱損傷	講義	
第6回	関節リウマチ	講義	
第7回	腱板損傷、熱傷	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経筋疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

末梢神経・筋の障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。  
各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADLへの介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・内部疾患の特徴を理解し、国家試験過去問題であれば適切な解答を選択肢として選ぶことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・実力テスト	講義	
第2回	疾患別治療学 ギランバレー	講義	
第3回	疾患別治療学 筋委縮性側索硬化症・筋ジストロフィー	講義	
第4回	疾患別治療学 重症筋無力症・多発性筋炎・皮膚筋炎	講義	
第5回	疾患別治療学 多発性硬化症	講義	
第6回	疾患別治療学 パーキンソン病	講義	
第7回	先進医療について	講義	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験 (50%)      ■レポート (授業レポート 20%、最終ポートフォリオ 20%) ■その他 (持ち物・提出物管理など 10%)
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内部障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

内部障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。  
各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・内部疾患の特徴を理解し、国家試験過去問題であれば適切な解答を選択肢として選ぶことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・実力テスト	講義	
第2回	疾患別治療学 糖尿病	講義	
第3回	疾患別治療学 循環器疾患・心電図	講義	
第4回	疾患別治療学 呼吸器疾患	講義	
第5回	疾患別治療学 その他内部疾患	講義	
第6回	喀痰吸引 (講義)	講義・演習	
第7回	喀痰吸引 (実技)	講義・演習	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験 ( 50%)      ■レポート (授業レポート 20%、最終ポートフォリオ 20%) ■その他 (持ち物・提出物管理など 10%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経・心理障害 I (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	前期	必修

◇講義概要

精神障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・精神疾患を患った人の気持ちや生きづらさを理解することができる。
- ・対象者の疾患に合わせたプログラムを立案できる。
- ・精神疾患の概要を説明することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神の病い処遇の歴史と作業療法	講義	
第2回	精神疾患と身体疾患の違い	講義	
第3回	精神科作業療法の概要	講義	
第4回	精神科作業療法の役割と環境設定	講義	
第5回	作業療法の特性	講義	
第6回	精神障害の ADL	講義	
第7回	治療構造	講義	
第8回	対象者と作業療法	講義	
第9回	精神科に求められる作業分析	講義	
第10回	作業特性を用いた治療	講義	
第11回	回復状態に応じた作業療法①	講義	
第12回	回復状態に応じた作業療法②	演習	
第13回	精神科作業療法の手順	講義	
第14回	統合失調症スペクトラムと作業療法①	講義	
第15回	統合失調症スペクトラムと作業療法②	講義	
第16回	作業遂行機能の評価	講義	
第17回	気分障害と作業療法①	講義	
第18回	気分障害と作業療法②	講義	
第19回	症例検討	講義	
第20回	中間試験	講義	
第21回	コミュニケーション技法	講義	
第22回	観察からの評価①	演習	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第23回	観察からの評価②	演習	
第24回	精神認知機能の評価検査①	演習	
第25回	精神認知機能の評価検査②	演習	
第26回	他職種からの情報収集	講義	
第27回	評価した内容を統合と解釈する①	講義	
第28回	評価した内容を統合と解釈する②	演習	
第29回	前期のまとめ	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 65 %)	□実技試験 (      %)	□演習評価 (      %)
	■小テスト ( 25 %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (              %)

教科書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)
参考図書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)、病気が見える vol.7 脳・神経 第2版 (メディックメディア)
留意事項	予習、復習をすること

令和8年度  
実務経験のある教員等による授業科目

作業療法学科 教育課程

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
3 専門分野									
基礎作業療法学									
レクリエーション療法演習				30			30	1	◎
小計				30			30	1	
作業療法評価学									
作業療法評価学 I		60					60	2	◎
小計		60					60	2	
作業療法治療学									
作業治療学の基礎			30				30	1	◎
中枢神経障害			30				30	1	◎
骨関節疾患			15				15	1	◎
神経筋疾患				15			15	1	◎
内部障害				15			15	1	◎
神経・心理障害 I			60				60	2	◎
小計	0	0	135	30	0	0	165	7	
総合計	0	60	135	60	0	0	255	10	

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。  
臨床実習にあつては1単位40時間とする。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション療法演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	2	1	後期	必修

◇講義概要

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する。
--

◇到達目標

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法の理解
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ファストインプレッションとは	講義・演習	
第2回	出会いの場と分析（交流分析）	講義・演習	
第3回	デュアルタスク手遊び	講義・演習	
第4回	レクリエーション財とは	講義・演習	
第5回	活動の分析とアレンジ	講義・演習	
第6回	集団の中の個人を捉える（五感で感じる技術）	講義・演習	
第7回	集団を介したレク活動における観察法	講義・演習	
第8回	集団を介したレク活動の実際	講義・演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践1	講義・演習	
第10回	コミュニケーションワークと実践2	講義・演習	
第11回	レクリエーションプログラムについて	講義・演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義・演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義・演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験（        %） <input type="checkbox"/> 実技試験（        %） <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（ 100 %） <input type="checkbox"/> 小テスト（        %） <input type="checkbox"/> レポート（        %） <input type="checkbox"/> その他（        %）
------	---

教科書	なし
参考図書	療法的レクリエーション資料 その他適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施。 最終演習・実技にてレクリエーション課程を評価する。 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	2	後期	必修

◇講義概要

適切な治療および指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本事項について、講義と実習を通して学ぶ。
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の意義，目的を説明できる。</li> <li>・各評価法の意義，方法，目的を説明できる。</li> <li>・測定（検査）方法を修得し実施できる。</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	
第2回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第3回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第4回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第5回	関節可動域測定	講義・演習	
第6回	関節可動域測定	講義・演習	
第7回	関節可動域測定	講義・演習	
第8回	関節可動域測定	講義・演習	
第9回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第10回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第11回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第12回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第13回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第14回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第15回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第16回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第17回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第18回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第19回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第20回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第21回	排泄機能評価	講義・演習	
第22回	排泄機能評価	講義・演習	

令和8年度 作業療法学科 シラバス

第23回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第24回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第25回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第26回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第27回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第28回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第29回	まとめ	講義・演習	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 30 %）	■実技試験（ 30 %）	■演習評価（ 20 %）
	■小テスト（ 10 %）	■レポート（ 10 %）	□その他（ %）

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版（医学書院） 新・徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版社）
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） PT・OTのための画像のみかた 第2版（金原出版）
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワーク・演習へ主体的に参加する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学の基礎 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法で行われる様々な治療学に共通する理念を学ぶ。作業療法評価・介入の原理およびその形態、治療を行う上での心構えと、各種の疾患特性に合わせた治療各論の基礎的な知識や技術の枠組みを学ぶ。

◇到達目標

- ・ADL,IADL とは何か、またその評価から治療への流れを説明することができる。
- ・身体障害領域で行われる種々の治療理論について具体的に説明することができる。
- ・自助具作成を通して、日常生活活動支援の在り方について考察することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADL と IADL の概要 活動と参加：Barthel Index	講義	
第2回	デジタルアクセシビリティ	講義・演習	
第3回	デジタルアクセシビリティ	講義・演習	
第4回	バリアフリー展	校外学習	
第5回	自助具作成（話し合い）	演習	
第6回	自助具作成（作成）	演習	
第7回	自助具作成（発表）申請書、動画・画像データ提出	演習	
第8回	活動と参加：機能的自立尺度（FIM）	講義	
第9回	活動と参加：機能的自立尺度（FIM）	講義	
第10回	活動と参加：機能的自立尺度（FIM）	講義	
第11回	ベッド上介助（寝返り、起き上がり、立ち上がり）・移乗介助の方法1	演習	
第12回	ベッド上介助（寝返り、起き上がり、立ち上がり）・移乗介助の方法2	演習	
第13回	ROM運動、筋力増強訓練、協調性練習	講義	
第14回	片麻痺の訓練（BRS法、ボバース概念、PNF、CI療法）	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（80%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（10%） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（10%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> その他（%）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
中枢神経障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	前期	必修

◇講義概要

中枢神経障害を生じる代表的疾患（脳血管障害、脊髄損傷等）の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・中枢神経疾患の特徴を踏まえ、評価の計画・実施を援助の下行える。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション（授業概要説明・作業療法評価とは）	講義	
第2回	症例検討（治療理論に沿った評価）	講義	
第3回	患者モデル評価ガイダンス・評価準備①	講義	
第4回	患者モデル評価準備②	講義	
第5回	患者モデル評価準備③	講義	
第6回	患者モデル来校・評価実施①	講義・演習	
第7回	患者モデル来校・評価実施②	講義・演習	
第8回	患者モデル評価結果まとめ	講義	
第9回	患者モデル評価結果考察・共有	講義	
第10回	患者モデルレポート作成	講義	
第11回	疾患別治療学 脊髄小脳変性症	講義	
第12回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際①（実技を含む）	講義・演習	
第13回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際②（実技を含む）	講義・演習	
第14回	疾患別治療学 脊髄損傷	講義	
第15回	筆記試験	試験	

評価方法	■試験（30%） ■レポート（患者モデル20%、GW報告書5%、最終ポートフォリオ20%） ■その他（授業貢献度、持ち物・提出物管理など25%）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	OT 症例レポート 赤ペン添削ビフォー・アフター
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
骨関節疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

骨関節障害を生じる代表的疾患（骨折、リウマチ等）の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・ 整形外科疾患に対する作業療法について具体例を示し述べられる。
- ・ リウマチに対する作業療法について具体例を示し述べられる。
- ・ 脊髄損傷の概要について述べられる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論 骨関節障害と作業療法	講義	
第2回	下肢、体幹の骨関節障害関節	講義	
第3回	脊髄損傷	講義	
第4回	手の骨折	講義	
第5回	末梢神経損傷	講義	
第6回	屈筋腱損傷	講義	
第7回	腱板損傷、熱傷、リウマチ	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経筋疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

末梢神経・筋の障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。  
各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADLへの介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・神経筋疾患の特徴を理解し、特徴に即した評価のポイントを挙げられる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション／症例検討	講義	
第2回	疾患別治療学 多発性硬化症／グループワーク	講義	
第3回	疾患別治療学 ギランバレー／グループワーク	講義	
第4回	疾患別治療学 筋委縮性側索硬化症／グループワーク	講義	
第5回	疾患別治療学 筋ジストロフィー／グループワーク	講義	
第6回	グループワーク発表	講義	
第7回	症例検討	講義	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験 ( 30%)      ■レポート (授業レポート 35%、最終ポートフォリオ 10%) ■その他 (持ち物・提出物管理など 25%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版 (メディックメディア社)
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内部障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

内部障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。  
各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・内部疾患の特徴を理解し、国家試験過去問題であれば適切な解答を選択肢として選ぶことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	
第2回	疾患別治療学 循環器疾患・心電図	講義	
第3回	疾患別治療学 呼吸器疾患	講義	
第4回	疾患別治療学 DM・CKD	講義	
第5回	疾患別治療学 がん	講義	
第6回	喀痰吸引（講義）	講義・演習	
第7回	喀痰吸引（実技）	講義・演習	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験（50%）      ■最終ポートフォリオ（30%）※廃用レポート、最終レポート含む ■その他（20%）※持ち物・提出物管理・理解度チェックアンケートなど
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること。

令和8年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経・心理障害 I (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	前期	必修

◇講義概要

精神障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・精神疾患を患った人の気持ちや生きづらさを理解することができる。
- ・対象者の疾患に合わせたプログラムを立案できる。
- ・精神疾患の概要を説明することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神の病い処遇の歴史と作業療法	講義・演習	
第2回	精神疾患と身体疾患の違い	講義・演習	
第3回	精神科作業療法の概要	講義・演習	
第4回	精神科作業療法の役割と環境設定	講義・演習	
第5回	作業療法の特性	講義・演習	
第6回	精神障害の ADL	講義・演習	
第7回	精神科で用いる作業分析	講義・演習	
第8回	作業特性を用いた治療	講義・演習	
第9回	精神科作業療法の治療構造	講義・演習	
第10回	対象者と作業療法	講義・演習	
第11回	回復状態に応じた作業療法①	講義・演習	
第12回	回復状態に応じた作業療法②	講義・演習	
第13回	精神科作業療法の手順	講義・演習	
第14回	作業療法における観察、治療プログラムの立案	講義・演習	
第15回	統合失調症スペクトラムと作業療法①	講義・演習	
第16回	作業遂行機能の評価	講義・演習	
第17回	統合失調症スペクトラムと作業療法②	講義・演習	
第18回	気分障害と作業療法①	講義・演習	
第19回	気分障害と作業療法②	講義・演習	
第20回	統合失調症と気分障害の関わり	講義・演習	
第21回	中間試験	試験	
第22回	傾聴法	講義・演習	

令和8年度 作業療法学科 シラバス

第23回	症例検討	講義	
第24回	評価の流れと評価手段	講義・演習	
第25回	精神認知機能の評価検査①	講義・演習	
第26回	多職種からの情報収集	講義・演習	
第27回	初期評価と支援計画	講義・演習	
第28回	初期評価のまとめ①	講義・演習	
第29回	初期評価のまとめ②	講義・演習	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 65 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	■小テスト ( 25 %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (            %)

教科書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店) こころの健康がみえる 第1版 (メディックメディア)
参考図書	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版 (メディックメディア)
留意事項	予習、復習をすること。